

「柏崎の橋」

74 安政橋 (その1)

安政橋は、柏崎市北部の海岸部を縦断する国道352号の一部であり、鯖石川で隔てられた松波地区と安政町・桜木町をつなぐ。橋の名前は、安政元年（1854年）に最初の橋が架けられたことに由来する。

江戸時代の架橋以来、幾度となく修理・架け替えが行われてきた安政橋だが、現在のような自動車通行を前提としたコンクリートの橋となったのは昭和30年代のことである。木造で老朽化の著しかった橋を永久橋に架け替える計画が持ち上がったのが昭和34年。市民の大きな期待を集めて翌35年から工期2年の予定で建設が始まった。しかし工事は大幅に遅れ、仮橋（永久橋の建設中に通行する代替の橋）がようやく完成したのが昭和36年の春であった。仮橋は木造のため、路線バスが橋までの折り返し運転となったり、通行に不便なので多くの自動車やトラックが西中通を迂回したりと市民生活に大きな影響が出た。当時の新聞記事によれば、柏崎郵便局の連絡車が荒浜局に着くまでに3時間もかかったという。このため地元の人々は、請願書を提出したり陳情を行ったりして橋の早期建設を求めた。



昭和49年の安政橋

(広報かしわざき写真より)
橋に歩道橋が新設されたときの写真

その後、昭和38年4月に新しい安政橋は完成。「安政以来の悲願達成」と市民に喜ばれた。だがその後も国道352号の交通量は増大し続け、橋付近では朝夕の通勤時間帯に激しい渋滞が発生するようになった。また、柏崎・刈羽原子力発電所が近いことから、原子力防災の観点からも橋付近の通行を円滑にすることが急務となった。そして平成10年に始まる道路整備により、右折車線が新設されて自動車の通行がスムーズになったほか、歩道が拡幅され、通学する児童の安全確保も図られた。この道路整備の際に架け替えとなり、新たに造られたのが現在の安政橋である。

現在の安政橋の開通は平成22年2月20日。開通を祝うセレモニーに集まった地元の人からは「前の橋は狭くて揺れて怖かったが、これからは子どもたちも安心して渡れる。」など、たくさんの喜びの声が聞かれたという。

●参考にした本

『桜木町のあゆみ』桜木町町内会編（224 サク）
『砂丘の大地に生きる』
柏崎市中央地区コミュニティ編（224 Kチユ）